

私たちは「人になること」とは、自分自身を理解した上で自分の持つ才能や知恵を最大限に生かすために、今何をすべきかを考えることだと考えました。例えばグループワークで異なる意見が出たとします。その際に A 案・B 案のどちらか 1 つに決めるのではなく、両方の意見を尊重することが大切だと考えます。普段は無意識にやっていますが、大学生活の中で意識化していくことで自分自身と他者の理解を深められ、より成長できると考えました。そのように成長していくことで、人になることができるのではないのでしょうか。

そして「奉仕すること」とは、先ほどの例で言うと、両方の意見を尊重して出来た新しい意見を自分のできる範囲で実行していくことだと考えます。つまり、自分と同じく他者もかけがえのない存在であるということを理解した上で、自分が持つ最大限の力を生かして心から他者の支えになることです。

これらのことから、私たちの考える「人になれ 奉仕せよ」とは、本当の自分のあり方に気づき、受け止め、自身の持つ才能や知恵を最大限に活かし社会に貢献することだと考えました。

看護の現場はまさに、この「人になれ 奉仕せよ」の考えが不可欠な場であると考えます。同じ病気であっても患者さんが生きてきた人生によって、価値観や最終的に望む生活は異なります。患者さんの全てを理解し尊重しなければ、患者さんの望む支援、つまり、奉仕することはできません。したがって看護学生の私たちは「人になれ 奉仕せよ」の精神に立ち返り、患者さんに対して「今自分ができることは何か」と問い続け、実行していきたいと思います。